

### 第3章 自己指導能力の育成のための「学校楽しいーと」

#### 1 「学校楽しいーと」の活用の在り方

教師の児童生徒理解の深化に基づく児童生徒への働き掛けと児童生徒の自己指導能力の成長の過程を構造化したものが、次の「学校楽しいーと」活用モデル(図12)である。

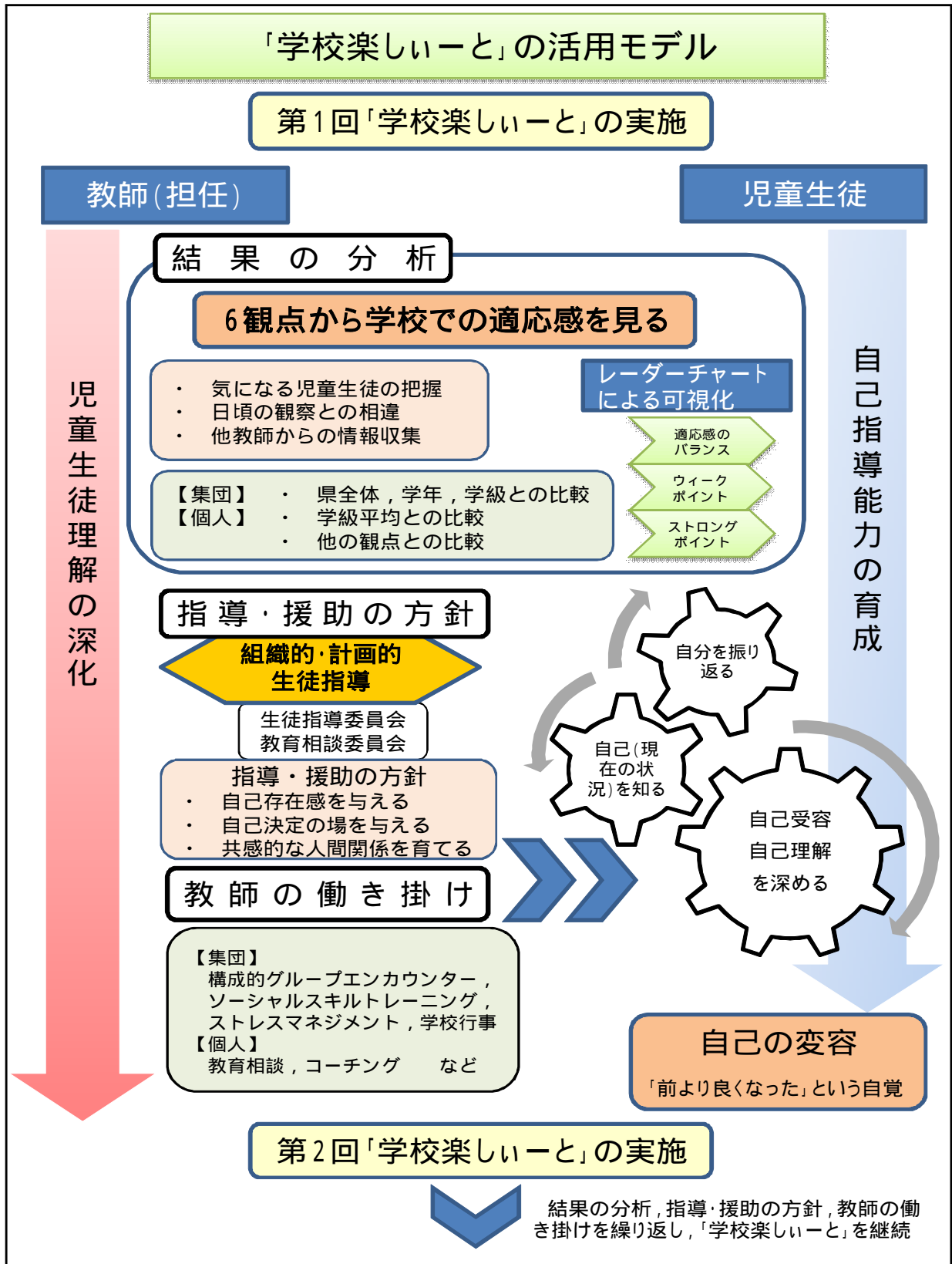


図12 「学校楽しいーと」活用モデル

(1) 児童生徒理解に基づく教師の働き掛け

ア 結果の分析と指導・援助の方針

第1回「学校楽しいーと」の実施後、結果の分析をレーダーチャートで行う。この結果を見る視点は、まず全体を見て極端な偏りなどがないかの「適応感のバランス」を見ることである。次にその児童生徒の6観点の中で相対的に「低い」ポイントを示す「ウィークポイント」で、どの観点到課題を抱えているかを把握することである。また相対的に「高い」ポイントを示す「ストロングポイント」で、児童生徒のよさに気付くことである。

学校、学年の集団への関わりについては、生徒指導部、教育相談係、学年会などが中心となり、組織的・計画的に指導・援助の方針を立て共通理解、共通実践を図ることが重要である。なお、第2回「学校楽しいーと」の実施後は、これまで行ってきた具体的な対応策についての検証を行い、事例研究会を通じて効果的な教師の働き掛けを共有する必要がある。学年会、職員会議での教師間の情報交換を活発にすることなどにより児童生徒理解を一層深めることができる。

生徒指導部、教育相談係、学年会が行う組織的・計画的な生徒指導のポイント

学校の年間指導計画への位置付け（学校行事等の時期を配慮し各学期に1回「学校楽しいーと」を実施）

学校、学年、学級の取組の重点事項（県、学校、学級の平均値との比較、分析から指導・援助の方針）の策定

集団（学校、学年、学級）及び児童生徒個人への働き掛けについて具体的な対応の策定

学級活動、LHR、総合的な学習の時間等で実施する活動例の紹介

配慮を必要とする児童生徒への対応策、働き掛けの助言

個への関わりについては、日頃から気になる児童生徒や教師（担任）の見立てと違う結果になった児童生徒について把握する。その際、児童生徒の背景について、他の教師から情報収集することも有効である。併せて、「学校楽しいーと」以外の検査等との関連を見ながら、総合的に児童生徒の状態を把握するように努めることが児童生徒理解を深めることにつながる。

イ 指導・援助の方針に沿った教師の働き掛け

児童生徒への教師の働き掛けは、指導・援助の方針に基づいて行うことが重要である。「自己存在感を与える」働き掛けは、「自分は、ここで役に立っている存在である」ことを実感させることをねらいとする。「自己決定の場を与える」働き掛けは、児童生徒の気付きをより具体化させて、自分のことは自分で決めさせることをねらいとする。「共感的な人間関係を育てる」働き掛けは、「自分や相手の気持ちが分かる経験を通して、一緒に活動する」ことの意味を実感させることがねらいである。これらの働き掛けは、授業や学校行事、学級活動、教育相談等の全ての教育活動を通じて構成的グループエンカウンター、ストレスマネジメント<sup>\*3)</sup>、ソーシャルスキルトレーニング<sup>\*4)</sup>などの技法を取り入れながら行うと有効である。

(2) 児童生徒の変容

自己指導能力を育成するためには、まず児童生徒に今の自分を振り返らせ、現在の状況を知らせることである。現在の状況を知ることから自分の課題に気付かせ、「こういう自分になりたい」という目標を掲げさせ、その目標に向け実際に行動を促していく。こうした一連の教師の働き掛けにより、「自己受容」や「自己理解」を深め、「以前の自分より良くなった」と実感させる。こうした自己の変容を繰り返していくことが自己指導能力の成長につながる。

\*3) ストレスマネジメント：ストレスの本質を知り、ストレスに対する自己コントロールを行動的に行うことを目的としたトレーニング。

\*4) ソーシャルスキルトレーニング：良好な人間関係をつくり、保つための知識と具体的なコツを身に付けるためのトレーニング。

## 2 「学校楽しいーと」を活用した働き掛けのモデル

「学校楽しいーと」を活用した具体的な働き掛けについて、学校行事を通じた集団への働き掛けのモデルと教育相談を活用した個への働き掛けのモデルについて述べる。

### (1) 学校行事を通じた集団への働き掛け

#### ア 「学校楽しいーと」を活用した集団への働き掛けのモデルプラン

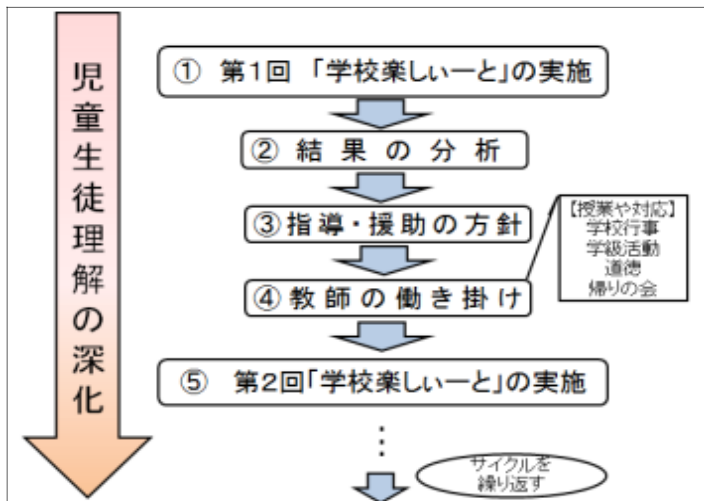


図13 「学校楽しいーと」を活用した集団への働き掛けのモデル

図13は、「学校楽しいーと」を活用した集団への働き掛けのモデルである。

「学校楽しいーと」の実施後、結果の分析を経て、担任は、学年部や生徒指導部での指導・援助の方針を確認する。その方針を踏まえ学校行事への取組を中心に据え学級活動や道徳の時間等を用い、働き掛けを行っていく。

学校行事終了後、再度「学校楽しいーと」を実施し、集団の変容を捉える。

### イ 学校行事を通じた集団への働き掛けの手順と具体的な方法の例及び留意点

集団への働き掛けの手順と具体的な方法の例及び留意点を示す（表7）。

表7 集団への働き掛けの手順と具体的な方法の例及び留意点

手 順	具体的な方法例	留意点
「学校楽しいーと」の実施	1 回目の「学校楽しいーと」を全児童生徒を対象に実施する。	実施目的や留意点を説明する。 記入漏れがないか確認する。
結果の分析	データを入力し、学級・学年シートを作成し、分析する。	学級・学年シートにおける適応感のバランス、ウィークポイント、ストロングポイントに着目し、分析する。
指導・援助の方針	「学校楽しいーと」の結果を踏まえ、日頃の観察や他の教師からの情報とを関連させながら、指導・援助の方針を立てる。	短期と長期についての指導・援助の方針を作成し、学年部・生徒指導部との共通理解の下、教師の働き掛けを行う。必要に応じて軌道修正する。
教師の働き掛け (授業・行事)	構成的グループエンカウンターやブリーフセラピー <sup>*5)</sup> などの技法を用い、学級活動において、互いのよさを認め合う活動や未来像の構築をさせる活動を行う。 読み物資料を用い、道徳の時間に人間関係づくりと関連した授業を行う。 学校行事で共感的な集団づくりを意識し、働き掛ける。	授業の中で、児童生徒の気付きや感想をシェアリングさせる。 学級のよさに気付かせ、相互評価を通して、学級の連帯感を向上させ、 <b>共感的な人間関係を育てる。</b> 自分や学級の未来像を描くことで <b>自己決定の場を与える。</b>  互いに励まし合い、高め合おうとする <b>共感的な人間関係を育てる。</b> 学校行事において、 <b>自己存在感を与え、共感的な人間関係を育てる。</b>
「学校楽しいーと」の実施	2 回目の「学校楽しいーと」を全児童生徒を対象に実施する。	1 回目の分析結果と比較し、必要に応じて、指導・援助の方針を修正し、関わり方を見直すようにする。

\*5) ブリーフセラピー：「どうなりたいか。」を大事にし、未来像から現在の問題を考えるアプローチの方法。

## ウ 対応の流れ（プラン）

### 第1回「学校楽しいーと」の実施

#### 【学級Aの状況】

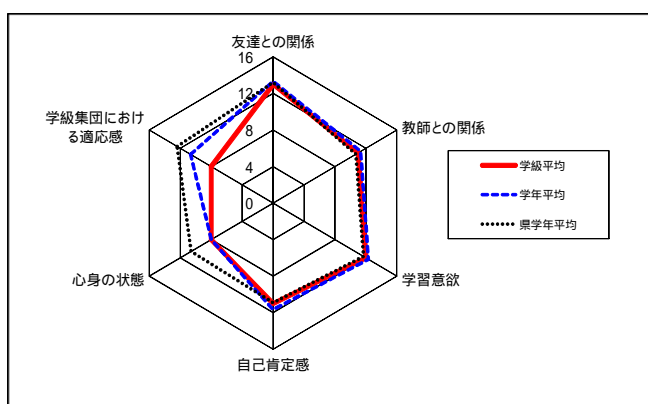
中学2年の学級A。1学期末の校内球技大会や2学期の体育大会など、順調にこなしている。しかし、一部の生徒だけが楽しんで行事を運営する状態にあり、学級として一つにまとまり、みんなでやり遂げようという雰囲気あまり見られず、行事後の感想に達成感を得られる内容が少なく。そこで担任は、再来月実施予定の合唱コンクールへの取組をきっかけとして前向きで協力的な学級をつくりたいと考えている。

(ア) 全職員共通理解の下、全校生徒を対象として1回目の「学校楽しいーと」による調査を実施する。

(イ) 担任が、日頃感じている学級Aの状況から、学級集団としての学校への適応感を見る。

### 結果の分析

(ア) 学級Aの様子をレーダーチャートで分析する。



#### < 適応感のバランス >

他観点と比べると「学級集団における適応感」「心身の状態」が落ち込んだ状態。

#### < ウィークポイント >

「学級集団における適応感」「心身の状態」が低い状態。

#### < ストロングポイント >

「友達との関係」「学習意欲」が学年平均とほぼ同じ状態。

### 指導・援助の方針

(ア) 「友達との関係」は、学年平均とほぼ同じ状態であるので、生徒同士の人間関係づくりに着目して働き掛ける。[長期]

(イ) 学校行事との関連で働き掛けを行う。[短期]

- ・ 合唱コンクールへの取組において働き掛ける。

(ウ) 「学級集団における適応感」を高めるための留意点を考える。[長期]

- ・ 学級集団に親しみがもてるようにする。
- ・ 学級集団の信頼関係や所属意識を高め、自分の成長を感じ取ることができるようにする。

(エ) 他の教師との連携を図る。[長期・短期]

- ・ 学年部や音楽科と連携する。

### 教師の働き掛け

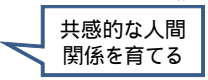
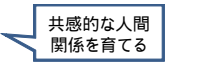
(ア) 構成的グループエンカウンターを活用した教師の働き掛け例（学級活動）

#### < ねらい >

自分の学級のよさや課題に気付かせ、相互評価を通して学級の連帯感を向上させる。  
(共感的な人間関係を育てる)

#### < エクササイズ名 >

「私たちの学級を知り、育てよう」  
お互いのよさを認め合う活動  
(学級活動)

＜指導の流れ＞		
過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1 本時の活動について教師の説明を聞く。	・ 現在の学級の様子を見つめ直して、合唱コンクールに向けて学級として、どう取り組んでいくかを考えさせる活動とすることを説明する。その際、学級の良いところに注目させる。
展開	2 学級の様子を見つめさせ、好きなところを記入する。 	・ 取り掛かりが遅い生徒には、既にいくつか記入している生徒の内容を「この意見、すてきだね。」と紹介してイメージがもてるように助言する。 ・ 同じような内容のものを集約して5点にまとめさせる。
	3 グループでお互いの意見を出し合い、良いところを5点にまとめる。	・ 温かい雰囲気づくりに配慮し、発表後には拍手をさせる。
	4 互いに発表する。	・ 5点は目標なので、5点でなくても全て受け入れるようにする。
	5 学級の課題を考える。	・ 課題解決のための方策は、具体的な行動目標になるように助言する。
	6 グループで方策を3点にまとめる。	・ 担任は、明るい雰囲気シェアリングを実施し、合唱コンクールにつながる行動目標にまとめさせる。 
7 学級として成長するための方策を3点にまとめる。		
終末	8 活動のまとめをする。	・ ワークシートは回収して、学級通信や教室の掲示に活用するなど、その効果を強化していくようにする。

評価  
自分の学級のおよさを知るとともに、課題に気づき、前向きに学級を良くしていこうという意欲が見られたか。

手順

ワークシート

私たちの学級を知り、育てよう  
( )年( )組 ( )番 氏名( )

私たちは、自分自身について、案外悪いことが気になったり記憶に残ってしまったりして、自分のことを正確に理解できないことがあります。  
今日の学習で、自分の情報を整理し、良いところはどんどん伸ばし、課題があればそれは何なのかを明確にしましょう。

1 学級で好きなところ

私は、この学級の \_\_\_\_\_ が好きです。  
私は、この学級の \_\_\_\_\_ が好きです。

2 学級のここが自慢

私は、この学級の \_\_\_\_\_ が自慢です。  
私は、この学級の \_\_\_\_\_ が自慢です。

3 学級のここが課題

私は、この学級の \_\_\_\_\_ が課題だと思います。  
私は、この学級の \_\_\_\_\_ が課題だと思います。

4 方策は

作戦 \_\_\_\_\_  
作戦 \_\_\_\_\_  
作戦 \_\_\_\_\_



本時では、自分の学級のおよさを知るとともに、課題解決に向けて、よりよい学級にしていこうという活動意欲へつなげる学習活動を展開する。今後は、「学級をよくするために自分には何ができるのか。」について学習活動を計画し、学級での自己存在感を高める活動へとつなげていく。

(イ) ブリーフセラピーを活用した教師の働き掛け例（学級活動，帰りの会）

<p>&lt;ねらい&gt; 自分や学級の未来像を描かせ、学級の一人として希望をもって自的に迫っていく意欲を育てる。 (自己存在感を与える) (自己決定の場を与える)</p>	<p>&lt;エクササイズ名&gt; 「私の未来は」「ここまでできた」 未来像を構築する活動 成功体験を積み重ねる活動 (学級活動，帰りの会)</p>
---	---

<指導の流れ>

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1 本時の学習活動について教師の説明を聞く。	・ 合唱コンクールの取組の目標を定める学習活動であることを確認させる。
展	2 昨年度の合唱コンクールのDVDを鑑賞する。 3 ワークシート ~ に記入する。 4 グループでシェアリングする。	・ 最優秀賞の学級の合唱を鑑賞させ、どのような取組が結果に結び付いたのかを考えさせる。 ・ 終了後の気持ちにできるだけ近付けさせるように記入の時間は、十分に与える。
開	5 グループの代表的な意見を出し合い、互いにシェアリングする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">共感的な人間関係を育てる</div>	・ 互いのプラスのイメージを出し合わせ、学級でまとめて取り組んでいこうという意欲を高めさせる。 ・ 他のグループの意見を聞くことで、学級全員が「みんなで作り上げていき、最後は感動して満足してステージを降りたい。」という同じ思いを抱いていることに気付かせる。
終末	6 「未来の自分」からのプチメッセージを記入し、発表する。 7 教師の話聞く。	・ できるだけ複数の生徒の意見を発表させ、その意欲を学級全体のものとして共有させる。 ・ 自主的な活動へと結び付くような話をする。

評価

学級としてまとめて合唱活動に取り組んでいこうという意欲が高まったか。

手順

ワークシート

私の未来は

合唱コンクールが終わった後の気持ちや様子を見に行きましょう。

歌い終わって会場の人たちからのたくさんの拍手をもらい、どんな気持ちですか？

自己存在感を与える

退場したあと、あなたは、友達にどんな声をかけていますか？

自己存在感を与える

帰りの会で、先生はみんなにどんな声をかけてくれますか？

あなたは、今どんな表情をしていますか？

・ 友達はなんと答えますか？

友達はあなたにどんな声をかけてくれますか？

「未来の自分」からのプチメッセージ

自己決定の場を与える

本時では、自分や学級の在り方についての明確な目標をもたせるために、各自の未来像や学級の未来像を書かせる活動を行う。

まず、「合唱コンクールが終わったとき、このような自分になっている。」「このような学級になっている。」というイメージを具体的にもたせる。その上で、その姿に近付くために、今努力できることはないかという意識を高め、自主的な活動へとつなげていくことが大切である。そして、この意欲や目的意識を持続していくために、次のような自己評価カードによって、友達や教師の励ましも記入できるように工夫する。

ワークシート
< 自己評価カード >

## 「ここまで できた」

未来の姿（ゴール）

自己決定の場を与える

この未来像を 10 点満点とした時、今日は何点になりますか。

月日	点数	自分の取組反省 ( 感じたことや考えたこと )	友達からのメッセージ ( 気付いた頑張り )	先生からの一言 ( 勇気付け )
/	点	自己決定の場を与える	自己存在感を与える	自己存在感を与える

手順

この自己評価カードは、毎日の帰りの会に記入させ、継続的に活用できるようにする。また、未来の姿を記入させることで、常に意欲を持続できるようにし、10点満点のうち、何点ぐらいの活動ができたかをその都度振り返らせる。

教師は、生徒の頑張りやよさに気付かせるために、肯定的なフィードバックを心掛けるようにする。「みんなの役に立っている自分」の存在を自分自身で認められるような言葉掛けを継続していくようにする。「どうしてやれたのかな?」、「そんな大変な中で君は、どうやったの?」、「なぜうまくいったの?」と、頑なりに気付いて評価することで、偶然に起こったことではなく、継続して努力していることの成果であるという自覚に結び付けられるようにする。

(ウ) 道徳の時間における教師の働き掛け例

<p>&lt;ねらい&gt;</p> <p>友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合おうとする道徳的実践意欲を育てる。</p> <p>( 共感的な人間関係を育てる )</p>	<p>&lt;教材名&gt;</p> <p>「嵐の後に」</p> <p>2 (3) 信頼友情</p> <p>( 文部科学省 中学校道徳読み物資料 )</p> <p>( 道徳 )</p>
---	--

【資料の概要】

子どもの頃から何でも話し合える仲だった勇太と明夫だが、高校生になった頃から明夫が派手な仲間と付き合うようになっていく。定職に就かないままの明夫を心配して勇太の父親が、自分の船に乗せる。漁師見習いとして、船に乗った明夫の仕事ぶりはやる気が見えなかった。ある嵐の日、危険と恐怖の中で、勇太が危険を顧みず明夫を助ける。

これがきっかけとなって二人の友情が確かなものとなる。

道徳の時間に用いた資料は、「中学校道徳読み物資料集」(平成24年3月文部科学省)より選定した。嵐という異常な事態に遭遇して心の中を打ち明け合う二人であるが、特別な時や場面だけでなく、日常の中においてもそのような願望があることを考えさせることができる。最近の児童生徒の友人関係は表面的で非常にもろい状態であると言われるが、合唱コンクールに向けての取組においても、互いに切磋琢磨して、向上を目指すような友人関係を構築することの大切さについて気付かせる。

＜指導の流れ＞		
	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1 「友達に救われた。」経験を思い出してワークシートに記入して発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの友達との関わり合いについて振り返らせる。</li> <li>発表者への拍手をさせる。</li> <li>教師が範読する。</li> <li>主人公の心の動きには線を引きながら聞かせる。</li> </ul>
	2 資料「嵐の後に」を読む。	
	3 主人公の心情を考える。 親父に「上っ面だけで付き合ってるんじゃないぞ。」と言われて勇太はどんなふう に受け止めたのだろう。 (予想される生徒の反応) 浅い友達関係を見抜かれた。上っ面 で嵐の海を一緒に乗り越えられると 思うのか。いざとなったら命をかけて 助け合う。など	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親の発言から、表面的な友達関係について考えさせる場面とする。</li> </ul>
展開	「ぐずぐずするなっ。波に飲み込まれるぞ。後は俺がやる、ブリッジに入れっ。」 と言った勇太はどんな思いだったのか。 明夫を死なせられない。俺が守らな ければ。夢中だった。など	<ul style="list-style-type: none"> <li>勇太の行動をどのように思うのかについてできるだけ意見を引き出して考えさせる。</li> </ul>
	「だから、戻ってきた、ここに。」を聞いたとき、勇太はどんなことを思ったのだ ろう。 ずっと心配していた自分の気持ちは 溜っていた。夢中だった。など	<ul style="list-style-type: none"> <li>勇太と明夫が心を通わせた発言であるのでその心情に気付かせる。</li> </ul>
	顔を見合わせてがっつりと手を握り合った勇太は、どんなことを思っているのだ ろう。 中よかった頃の二人に戻ったな。 俺は本当の友達でいることができる。 助け合って一緒に船に乗れる。 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉を特に発さないで、手を握り合ったこの二人の心情に気付かせる。</li> <li>ロールプレイングで実際にその場面を演技させることで、より心情に迫らせる工夫をする。</li> </ul>
終末	4 「心のノート」に友情についての考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを基に、学級の一員として何ができるのかを交えて「心のノート」に記入させる。</li> </ul>
	5 感想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの友達との接し方について意見を引き出す。</li> </ul>

○ 評価  
真の友情について考えさせることができたか。

共感的な人間関係の育成

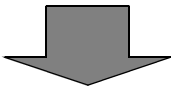
共感的な人間関係の育成

手順

＜予想される授業後の生徒の反応＞

友達と仲良くすることが、友情を大切にすることだと思っていた。

これまでの友情についての考え方



- 相手のために厳しく言うことも友情なんだと思った。
- 私はまだちゃんとした友達になっていないのかも反省した。
- 自分にも勇太のような強さが欲しいと思った。

友情についての考え方の変化



(I) 構成的グループエンカウンターを活用した教師の働き掛け例（学級活動）

<p>&lt;ねらい&gt; 活動を振り返り，級友から温かい評価を受けることにより，学級における適応感を高める。 （自己存在感を与える） （共感的な人間関係を育てる）</p>	<p>&lt;エクササイズ名&gt; 「君がいたおかげで」 互いのよさを認め合う活動 （学級活動）</p>
---	---

学校行事の一つ一つは，学級の団結力を育て，生徒一人一人が力を付ける場面になる。本学級は，「学級集団における適応感」のポイントが低いモデルである。そこで，自己存在感や共感的な人間関係を育てることに着目し，合唱コンクールへの取組を計画した。教師は，一つ一つの学校行事の意義をしっかりと押さえ，感動体験を味わわせることができるように配慮する必要がある。舞台上で達成感を味わった生徒の印象をその時だけで終わらせてしまわないように，合唱コンクール終了後に構成的グループエンカウンターを活用して，互いのよさを確認し合う活動を取り入れる。そのことが生徒たちの心に行事のプラスのイメージを残し，学級集団における適応感を高めることに結び付く。合唱コンクール当日の映像を授業の導入で活用すると，当日の感激やそれまでの取組に思いをはせることができ，より有効である。

教師は，学級集団として高まった共感的な人間関係を評価し，これからの様々な場面で生かすことができるよう，以後の教育活動において継続した働き掛けをしていくことが重要である。

手順

ワークシート

「君のおかげで」  
（ ）年（ ）組（ ）番氏名（ ）

学級のみinnで取り組んだ合唱コンクールも感動のうちに終わることができました。一人一人の頑張りが光った合唱コンクールでした。一人一人の頑張りを挙げてみましょう。

名 前	光った☆頑張	名 前	光った☆頑張

合唱コンクールをみんなでやり遂げたこのエネルギーをこれからも様々な場面で生かしていきましょう。

共感的な人間関係を育てる

第2回「学校楽しいーと」の実施

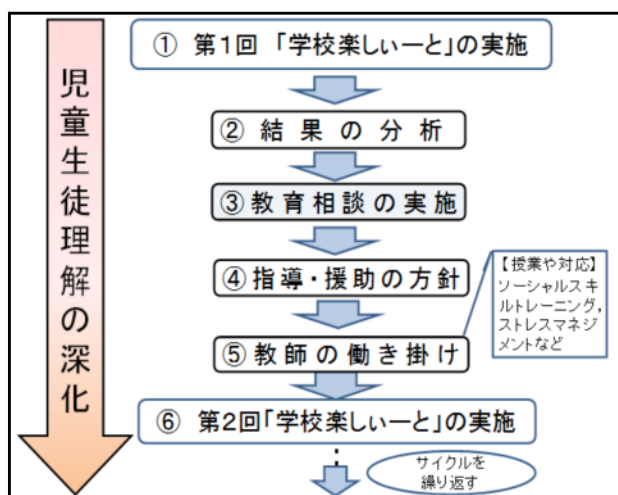
学級活動，道徳の時間，帰りの会，学校行事の終了後，2回目の「学校楽しいーと」を実施する。集団への教師の働き掛けのプラン作成や指導・援助の評価をするためには，「学校楽しいーと」を計画的・意図的に実施し，児童生徒の変容を捉えながら活用することが大切である。教師の児童生徒一人一人の努力を認める働き掛けが，学級における所属感や信頼関係に結び付くことを念頭に置き，関わりを続ける必要がある。

手順

(2) 教育相談を活用した個への働き掛け

ア 「学校楽しいーと」を活用した個への働き掛けのモデルプラン

「学校楽しいーと」を教育相談につなげ、児童生徒の自己指導能力の育成を図るためのプランを示す。図14は、「学校楽しいーと」を活用した個への働き掛けのモデルである。



1回目の「学校楽しいーと」を実施し、データを記入後、結果を分析し、教育相談につなげる。

教育相談での内容や日頃の観察、他の教師からの情報を基に指導・援助の方針を立てソーシャルスキルトレーニングやストレスマネジメント教育の手法等を使って、教師の働き掛けを行い、課題の解決を図る。その後、「学校楽しいーと」を再度実施し、児童生徒の変容や現状を捉えるようにする。

図14 「学校楽しいーと」を活用した個への働き掛けのモデル

イ 教育相談を活用した個への働き掛けの手順と具体的な方法の例及び留意点

個への働き掛けの手順と具体的な方法の例及び留意点を示す(表8)。

表8 教育相談を活用した個への働き掛けの手順と具体的な方法の例及び留意点

手 順	具体的な方法の例	留意点	
「学校楽しいーと」の実施	1回目の「学校楽しいーと」を全児童生徒を対象に実施する。	実施目的や留意点を説明する。 記入漏れがないか確認する。	
結果の分析	データを入力し、個票や学級・学年シートを作成し、分析する。	個票や学級・学年シートにおける適応感のバランス、ウィークポイント、ストロングポイントに着目させ、分析する。	
教育相談の実施	児童生徒 個別	「学校楽しいーと」を実施後、早期に個別の教育相談を実施する。 (気になる児童生徒)	教師との信頼関係づくりを基本とし、児童生徒に「自己発見」や「自己決定の場」をもたせる。
	保護者	本人との教育相談を踏まえ、保護者の思いを聞き、学校での取組への理解と協力をもらう。	保護者との信頼関係づくりを基本とし、保護者と共に対応していくことを理解させる。
指導・援助の方針	教育相談の内容を踏まえ、日頃の観察や他の教師からの情報とを関連させながら、結果の分析に基づいた指導・援助の方針を立てる。	短期と長期についての指導・援助の方針を作成し、必要に応じて軌道修正させる。	
教師の働き掛け(授業・対応)	課題に応じた授業を関連させながら計画的に実施する。 ソーシャルスキルトレーニングやストレスマネジメント等の手法を生かしながら働き掛ける。	授業の中で、児童生徒の気付きや感想をシェアリングさせる。 自己存在感や共感的な人間関係づくりに留意させる。	
「学校楽しいーと」の実施	2回目の「学校楽しいーと」を全児童生徒を対象に実施する。 必要に応じて、個別に「学校楽しいーと」を実施する。	1回目の分析結果と比較し、必要に応じて、指導・援助の方針を修正し、関わり方を見直すようにする。	

ウ 対応の流れ（プラン）

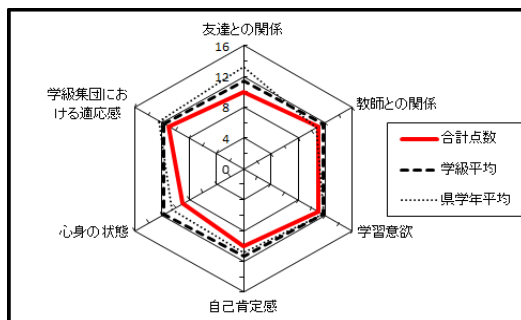
児童A（小6 女児）を仮に設定し、個への働き掛けのモデルプランを述べる。

第1回「学校楽しいーと」の実施

- (ア) 5月、学級の児童全員に対し、「学校楽しいーと」を実施する。  
 (イ) 各観点のポイントで低かった児童を配慮の必要な児童として抽出する。

結果の分析

- (ア) 児童Aの個票を分析する。



観点	合計点数	学級平均
1 友達との関係	10	11.3
2 教師との関係	11	11.7
3 学習意欲	11	11.7
4 自己肯定感	10	11.3
5 心身の状態	9	11.7
6 学級集団における適応感	11	11.7

各観点のポイントが低い児童だけでなく、項目に「1」を付けている児童にも留意する。

< 適応感のバランス >

特にバランスが崩れていることはないが、「心身の状態」の落ち込みが見られる。

< ウィークポイント >

「友達との関係」、「自己肯定感」、「心身の状態」が低い。

< ストロングポイント >

「教師との関係」、「学習意欲」が高い。

個票のメモ欄を使って児童Aの特徴を書き込む。

【児童Aの背景】普段からおとなしい小6の女子児童である。一人でいることは少なく、複数の児童と行動を共にしている。学習面では、積極的に自分の考えを発表するまではないが、指名されると、答えることができる。係活動など、決められた仕事には責任をもってやり遂げることができる。また、吹奏楽のクラブに所属しており、活動に休まずに参加できている。学校を欠席することはないが、最近、腹痛を訴えて、保健室に行くようになっている。これまで保護者からは、学校に特に連絡や相談はない。

教育相談の実施

T：教師 C：児童A

教育相談のやりとりは、手法を分かりやすく提示するための架空のモデルである。

- (ア) 児童Aを教育相談につなげる場面（例）

T：Aさん、最近、体調がよくないみたいだけれど、よかったら、先生と少し話してみないか。  
 C：...あっ。はい。  
 T：よかった。じゃあ、明日の放課後、30分ぐらい相談室でいいかな。  
 C：分かりました。

- (イ) 児童Aとの教育相談の場面（例）

T：よく来てくれたね。最近、Aさんは、体調が悪いことが少しあるみたいだから、先生も気になっていたところなんだよ。今日は、一緒に考えてみて、少しでも解決できたらと考えているんだ。  
 C：...あっ。はい。  
 T：「体調が悪い」というのは、具体的にどんな感じなのかな？  
 C：お腹が痛くなったり、何か、もやもやしてしてしまう感じなんです。  
 T：そうなんだ。いつの時間帯に、そんなふうになったりするのかな？  
 C：学校に行く前とか、夜、寝る前とかによくあります。  
 T：そうなんだね。お腹はどんな感じで痛くなるのかな？ちくちく？それともぐーと差し込むような感じかな？  
 C：ちくちくという感じです。

手順

手順

手順

T : なるほど。それに胸のもやもやとかもあるみたいなんだね。何か、今、ちょっとだけ気になっていることがあるのかな？

C : え～。まあ、少しだけ。

T : そうか、少しだけあるんだね。よかったら話をしてみないか。一緒にその解決策を探していけたらいいと思うんだけど。

C : はい…。実は、友だちのBさんのことなんですけど…。

T : あ～、よくAさんと一緒にいるBさんのことね。

C : はい。Bさんは、勝手に私の消しゴムを借りることがあるんです。

T : ほお、それで。

C : まあ、消しゴムを借りるのは別にいいですけど、何も言わないで、勝手に借りていったり、借りたまま、そのまま自分の机に置きっぱなしにして、返さないでいることもあるんです。

T : なるほど。Aさんが、「貸していいよ。」って言っていないのに、勝手に借りていったり、そのまま返さないでいたりするときもあったんだね。

C : そうなんです。別に貸さないわけではないんだけど、借りる時は、借りるって直接、言ってほしいし、使ったら、ちゃんと私の所まで返しに来てほしいです。

T : そうか、別にBさんに、「消しゴムを貸さないよ」とは思っていないけど、借りる時は、「借りる」とちゃんと行ってほしいし、使った後は、きちんと返してほしいと思っているんだね。 Aさんは、そのことがちょっと嫌だなあと感じてしまうことがあるのかな。

C : はい…。ちょっと嫌です。

T : そういうことが嫌だなと思っているAさんの気持ちは、Bさんには、伝えたことがあるのかな？

C : …いいえ。何も言っていないです。

T : そうか、言えないのは、何か理由があるからかな？

C : 言いにくいんです。言ったら、Bさんと気まづくなりそうで。それにBさんが、「そんなに言うなら、別にあなたから借りなくてもいい。」って言われそうな気がして…。

T : 言ってしまうことで、Bさんとの仲が気まづいものになるんじゃないかと心配しているんだね。

C : そうなんです…。

T : Aさんは、どんなふうになればいいなって思っているの？

C : え…。借りるのは、別にいいんだけど。借りる時は、直接、「貸して」とちゃんと行ってほしいし、使い終わったら、やっぱり「ありがとう。」と言って直接、私に返してくれるようになるといいなって思います。

T : そうなんだね。そういうふうになると、Aさんの気持ちもすっきりしそうだね。

C : はい。でも、それをどういうふうに言えばいいのか。言ってBさんに、嫌われたくはないし…。やっぱり、これからもBさんと一緒に仲良くしたいし。

T : なるほど。自分の言いたいこともちゃんとBさんに伝えることができ、Bさんにも「そのとおりだな」って分かってもらえるようにしたいんだね。そして、またいつものような仲のよい関係になりたいって思っているんだね。

C : そうなんです。

T : じゃあ、後は、そのことをどうBさんに伝えるかだね。先生と一緒にその方法を考えて、練習してみようか。

C : はい。ぜひ。

アサーショントレーニング<sup>\*6)</sup>のアサーティブな方法<sup>\*7)</sup>を考えて練習をする。

T : Aさん、今日、あなたと話をしたことを、家の方にも話をしてもいいかな。

C : はい。

T : そうか。よかった。家の人にもAさんのことを心配しているのではないかなと

自己存在感を与える。

共感的な人間関係を育てる。

自己発見、自己決定の場をつくる。

\*6) アサーショントレーニング：自分と相手、互いの人権を尊重した上で、自分の意見や気持ちをその場にふさわしく表現出きるようにするトレーニング。

\*7) アサーティブな方法：自分のことを大切にしながら、相手のことも考慮した自己表現。

思ったものだから。家の人も安心されると思うよ。  
 C：はい。母も、「お腹が痛いなら、病院に行こうか？」って言っていました。  
 T：お母さんもあなたのことを心配してくれていたんだよ。まずは、あなたからお母さんに伝えられるかな？その上で、先生からも話をするから。

(ウ) 児童Aの保護者との教育相談場面(例) T：教師，P：児童Aの保護者

T：こんにちは。今日は、Aさんが気になっていることについて、保護者の方と一緒に考える機会になればと思っています。  
 P：はい。お世話になっております。少し娘(児童A)からも聞いています。  
 T：Aさんは、自分からお母さんに言えたんですね。すごいですね。  
 P：いえいえ。  
 T：お母さんも、最近、Aさんのことで気になっていらしたことがあったんですね。  
 P：そうなんです。朝や夜に、急にお腹が痛いと言うものですから。何か、食べ物でも影響しているのかなって思いました。  
 T：そうだったのですね。それは心配されましたね。Aさんは、仲良くしているBさんが何も言わずに消しゴムを借りたり、借りたまま返さないでいたりすることもあったようで、そのことが気になっていたんです。  
 P：そうだったみたいで。「そんなに気になるなら、Bさんに、さっさとちゃんと言えばいいのにねっ。」て娘に言ったところでした。  
 T：そうなんですよね。**Aさんもそのことに自分で、気付いたようです。**ただ、Bさんのことも大事にしたいし、このことで、**関係を悪くはしたくない**と考えていたみたいですよ。  
 P：まあ。それは、言い方次第だとは思いますが、**自己存在感を与える。**  
 T：はい。どう言うかです。Bさんのことも考えて、**自分の困っていること**も、きちんと相手に伝わるような言い方ができるといいですよ。  
 P：そうですね。女の子の関係って難しいんですかね。  
 T：そうですね。でも、女の子に限らず、自分自身を上手に表現する方法というのは、学んでおくこれから先、いろいろな場面でも使えるものです。  
 P：そうなんですか。どんなふうに表現するのですか？

Aさんには、「アサーションスキル」の練習をしたこと、学級全体には、「気持ちのよい頼み方」というソーシャルスキルトレーニングなどを行う予定であることを話す。またAさんが、どんな様子であったかも伝える予定であることを話す。

T：家庭でも、似たような場面とかありませんか。  
 P：...そうですね。そういえば、家では、「**しなさい。**」と言うことが多くて**自分で言い方を考えさせる**ということは少なかったかもしれませんね。  
 T：そうなんですか。私たちは、ついつい先が見えてしまうものですから、「しなさい。」って言うことってありますよね。でも、そうすると、Aさん自身が気付いたり、考えたりするという機会が減ってしまったりすることもあったのかもしれませんね。  
 P：え...。本当に。家庭でもそういった面に気を付けていくといいんですね。  
 T：ありがとうございます。学校でもAさんと話をしながら、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れていきたいと思っています。今後もその状況や様子を含め、ご家庭と話をしながら進めていってもいいですか。  
 P：はい。そうしていただけると。どうぞよろしく申し上げます。

#### 指導・援助の方針

(ア) 児童Aの日常観察を意識的に行う。

- ・ 休み時間、給食の様子はどうか。
- ・ 児童Bとの関わり方はどうか。

(イ) 学年の教師、学校内の職員に児童Aについての情報収集を行う。

- ・ 最近、音楽の時間の集中力がなくなってきている。
- ・ この前の昼休みは、一人で図書室にいた。



(ウ) 指導・援助の方針を立てる。

<p>【個（児童A）への関わり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学校楽しいーと」のストロングポイントであった「教師との関わり方」の強みを生かし、「心身の状態」やその要因に関連するものを教育相談や対話を通して理解させる。 [短期]</li> <li>・ 友人Bとの関係を改善し、「心身の状態」や「友達との関係」が高まっていくよう、アサーションスキルを練習する場をもつ。 [短期・長期]</li> </ul> <p>【保護者への関わり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭での本人の様子を聞き取るとともに、家庭で困っていることや気になっていることについての情報を共有し、家庭での関わり方、学校での指導の仕方について、共に考える場をもつ。 [短期・長期]</li> </ul> <p>【学級集団の関わり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人や学級の課題となっている「適切な断り方や頼み方」やストレスを解消する方法などを学ぶためにソーシャルスキルトレーニングやストレスマネジメントの手法を使った授業を取り入れる。 [短期]</li> </ul>
--

手順

- 1 教師の働き掛け ソーシャルスキルトレーニング（学級活動）

児童Aとその保護者との教育相談を受け、学級全体に対して、ソーシャルスキルトレーニングを実施する。  
 内容は、児童Aの友人である児童Bの対応の仕方を学ぶために、「気持ちのよい頼み方」のエクササイズと、友人間の問題の解決策を考える「トラブルの解決策を考える」のエクササイズを実施する。

<p>&lt;ねらい&gt;          相手の気持ちや立場を尊重しながら適切に頼む方法を身に付ける。          （共感的な人間関係を育てる）</p>	<p>&lt;エクササイズ名&gt;          「気持ちのよい頼み方」          やさしい頼み方を身に付ける活動          （学級活動）</p>
--	--

<指導の流れ>

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1 これまで生きてきた中で、どれだけの人を支えたかを想起する。（インストラクション） 2 これまで、どんなことを他の人に頼んだことがあるかを発表する。（インストラクション）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人は一人だけでは生きていけず、多くの人の支えがあったことに気付かせる。</li> <li>・ 友達や家族、先生や他の人など自分以外の人に「頼むこと」は誰にでもあり、その際には、「頼み方」（どのように頼むか）が大切になることに気付かせる。</li> </ul>
展開	3 頼み方の二つの例（良い例と悪い例）を示し、言語的・非言語的側面においてどのような違いがあるかを考える。（モデリング） 4 受け取る側の気持ちを比べる。 5 「頼む」場面を3パターン想定し、相手にとって気持ちのよい頼み方を考え、練習する。（リハーサル） 6 グループ内の代表者が、学級全員の前で「頼み方」を発表する。参観者は、うまくできていたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内で付箋を貼ることを通して、良い例には、言語的側面として（理由 何を頼むか 実施できるとどうなるかの期待感）が入っていること、非言語的側面として（笑顔で 相手を見て 適切な音量で 適切な距離感で 適切なタイミングで）伝えていることに気付かせる。</li> <li>・ 受け取る側の印象が「頼み方」で全く異なっていることに気付かせる。</li> <li>・ 「頼む場面」： 重い荷物を一緒に運んでほしい 児童会室の場所を教えてほしい 分からない所を教えてほしいなどを想定させる。グループで場面を考えさせてもよい。頼み方が決まったら、グループ内で、役割を交代しながら頼む練習をさせ、終わったら、シェアリングさせる。</li> <li>・ 頼まれた人は、「いいですよ。」と返すようにさせる。</li> </ul>
終末	7 「気持ちのよい頼み方」を学習しての気付きや思ったこと、考えたことなど感想を発表する。 8 自分を振り返る。（フィードバック）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いいですよ。」と返してもらえない時の方法を考えさせる。</li> <li>・ 今日、学んだことを基に自分の言動を振り返らせ、日記に書かせる。</li> </ul>

手順

<p>&lt;ねらい&gt;          友達関係のトラブルの解決策を          考えることで、解決策の手順を身          に付ける。          (共感的な人間関係を育てる)</p>	<p>&lt;エクササイズ名&gt;          「みんなで見付けよう！トラブル解決法」          トラブルの解決策の手順を身に付          ける活動          (学級活動)</p>
--	--

< 指導の流れ >

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導 入	1 友達関係でこれまで困ったとい う経験の場面を発表する。 (インストラクション)  2 トラブルを解決していくことの よさを考える。 ・ 自分の言動を見直す機会 ・ 相手の理解を深める機会 ・ 人間関係が深まる機会 ・ 自信や自己肯定感の上昇 (インストラクション)	・ 事前にアンケート等を実施し、友達関係で 困った場面を想起させておく。 (例)・ 約束を破ってしまった。 ・ 勘違いをして怒ってしまった。 ・ 人間(友達)関係における困ったことを「ト ラブル」と定義する。 ・ トラブルが起きること自体が悪いことでは なく、トラブルを解決していくことを通して、 成長し、より豊かな人間関係を築いていくこ とにつながることに気付かせる。
展 開	3 トラブル解決の3パターンを考 える。(モデリング) ア 非主張的、回避的(逃げる、避ける) イ 攻撃的、破壊的(相手を抑えこむ) ウ 主張的、生産的(相手を配慮した主張) 4 トラブル解決の手順を知る。 (モデリング) 何が問題でどうしたいかを明確にする。 トラブルの原因を考える。 解決策を3種類以上考える。 解決策を選び、順番を決める。 実行の際の留意点や自分自身にかかる言 葉を決める。 実行したことを検証する。	・ 「本を借りたのになかなか返してもらえない 友達にどうするか？」というトラブル例を 基に考えさせ、回答を3パターンに分類する。 あわせて、実際に行った時の受ける相手の感 情に気付かせる。 ・ 「クラスメイトの一人があなたを避けてい るように感じるのですが、あなたには心当た りがありません。その人とは特別、親しいと いう仲ではありませんが、放っておいたら、 ますます気まずい関係になってきました。」と いうトラブルを基に、 <b>解決の手順を一緒に考            えさせる。</b> ・ <b>解決の方法は、最初1人で考え、その後、            グループで出し合うようにさせる。</b> ・ 自分と相手、観察者の3人を決め、役割演 技をさせる。時間があれば、役割を交代させ たり、全体の場で発表させたりする。
終 末	5 決めた解決策の方法で、ロール プレーイングをする。(リハーサル)  6 エクササイズを通して、気付い たこと、思ったこと、考えたこと をシェアリングする。	・ 「私たちのトラブル解決集」として記録と して残したり、日記を活用したり、学校生活 場面で振り返らせたりする。

手  
順

☆ワークシート ※「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」小学校 國分康孝監修を基に作成

### みんなで見付けよう！トラブル解決法

こんなとき、どうする？

クラスメイト一人があなたを避けているように感じるのですが、あなたには心当たりはありません。その人とは、特別親しいという仲ではありません...

① 何が問題か？  
どうしたい？

②

③ プランA      プランB      プランC

④ 手順ア      手順イ      手順ウ

⑤ ◆ 気を付けること (      )      □ 自分への言葉掛け (      )

【トラブル】

↓

① 問題の明確化

↓

② 原因を考える

↓

③ 解決策を考える

↓

④ 順番を考える

↓

⑤ 留意点を考える

- 2 具体的な働き掛け ストレスマネジメント (学級活動)

<p>&lt;ねらい&gt; 「感情、気分」に働き掛ける対処法を身に付ける。リラクセーションの心地よさを体験する。 (自己存在感を与える)</p>	<p>&lt;エクササイズ名&gt; 「リラックス呼吸法」 リラックスする方法を身に付ける活動 (学級活動)</p>
---	--

児童Aと保護者との教育相談やソーシャルスキルトレーニングとともに、学級全体に対して、ストレスマネジメントを実施する。  
内容は、イライラした心身の状態のときに、リラックスする方法を身に付ける「リラックス呼吸法」のエクササイズとストレス（嫌だと感じる刺激や出来事）をなくしたり弱めたりするコーピング（対処）の一つである「アサーションスキルのさわやかな言い方」を身に付けるエクササイズを実施する。

<指導の流れ>

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入	<ol style="list-style-type: none"> <li>学級全体の「学校楽しいーと」の「心身の状態」を知る。</li> <li>ストレスとは何かを知る。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スレッサー</li> <li>・ ストレス反応</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイスブレイキング（例：鏡拭き：互に向き合って相手の動きに合わせて、鏡を拭く動作）を行い、学習の雰囲気をつくる。</li> <li>・ 学級のレーダーチャート「心身の状態」を示し、自分自身の状態を振り返らせる。</li> <li>・ ストレスには、スレッサー（嫌だと感じる刺激や出来事）とストレス反応（ストレスにより引き起こされる生理的、心理的、行動的反応）があることを理解させる。</li> </ul>
展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>ストレスを感じた時の対処法を考える。</li> <li>グループで対処法を出し合い、話し合う。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>好きなことが一番！</b></p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>グループでまとめたストレスの対処法を発表する。</li> <li>リラックス呼吸法を知り、練習する。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>消去動作を知り、練習する。 リラックスの姿勢をとる。 吸っている息を口からゆったりと吐き出す。 吐き出したら、鼻から静かに吸う。[1・2・3] 「4」で止めて、ゆっくりと吐く。[5・6・7・8・9・10] 自分のペースで続ける。 自然な呼吸に戻す。 消去動作を行う。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「何か嫌だな。もやもやする。」などストレスを感じた時に、どうやって対処するか、対処してきたかを付箋に書き込ませる。</li> <li>・ グループ内で、広幅用紙に付箋を貼りながら説明させる。</li> <li>・ 貼った付箋を基に、仲間分けを行い、小見出しを付けさせる。 (例) ・ おしゃべりでストレス発散！  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽で心を元気！</li> <li>・ スポーツ大好き！</li> <li>・ 寝て、食べて元気モリモリ！</li> </ul> </li> <li>・ ブレインストーミング（相手のことを批判せず、集団でアイデアを出し合うことによって、新しい気付きを誘発する技法）を行う中で、気付いたこと、思い付いたことを矢印や図等を使って書き込ませる。</li> </ul>
終末	<ol style="list-style-type: none"> <li>エクササイズを通して、気が付いたこと、思ったことをシェアリングする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まとめたストレス対処法を教室に掲示し、学級PTA等で話題にする。</li> </ul>

手順

<p>&lt;ねらい&gt;          ロールプレイングを通して、アサーションによる対処法を知り、体験し、人間関係を円滑にする。          (自己存在感を与える)</p>	<p>&lt;エクササイズ名&gt;          「さわやかな言い方」          ストレッサーに対する自己主張順を身に付ける活動          (学級活動)</p>
---	---

<指導の流れ>

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導 入	1 学級全体の「学校楽しいーと」の「友達との関係」を知る。 2 友達との対応の仕方とストレスの関係について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級のレーダーチャート「友達との関係」を示し、自分の場合を振り返らせる。</li> <li>対応の仕方を学ぶことで、友達関係がより深まっていくことに気付かせる。</li> </ul>
展 開	3 場面を設定し、対応の仕方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             攻撃的な対応(アグレッシブ行動)              「嫌だ。一緒に遊べるわけないでしょ。」              はっきりせず無理をして我慢をする対応(ノアサーティブ行動)              「え...でも、うん...分かった。」              相手への配慮も行い、自分自身の主張もする対応(アサーティブ行動)              「ごめん。今日は用事があって一緒に遊べないんだ。でも、誘ってくれてありがとうね。今度、一緒に遊ぼうね。」           </div> 4 他の対応場面を設定し、アサーティブな行動を考え、練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「今日、早く家に帰って頼まれていることをしないといけないことがある。しかし、友達のA君が、『今日、一緒に遊ぼう。』と誘ってきた。」という場面を教師が設定し、その時の対応の方法を考えさせる。</li> <li>対応例を個人で考えさせた後、グループで出し合わせる。</li> <li>グループで出された対応例を発表させ、左の3種類の方法に分類させる。</li> <li>3人組でロールプレイング(本人、友達、観察者)を行い、気付いたこと、感じたことをシェアリングさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;対応場面例&gt;              「体操服を貸してほしい。」と言われたが、自分もこれから必要なので貸すことができない場面。              毎回、「宿題を見せて。」と言われ、困っている場面。              急に用事ができて自分との約束を破った友達への対応場面。</p> </div>
終 末	5 エクササイズを通して、気が付いたこと、思ったことをシェアリングする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             自己発見、自己決定の場をつくる。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アサーションの4原則を知らせ、練習していくことの大切さを理解させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             自分のことは責任をもって自分で決める。              自分の気持ちに正直になる。              自分の権利を守るため行動する。              人の権利を守る。           </div>

第2回「学校楽しいーと」の実施

各授業やそれぞれの対応などの関わりした後、2回目の「学校楽しいーと」を全児童生徒を対象に実施する。その結果を1回目の分析結果と比較し、児童生徒の「学校の適応感」の状況を捉え、その変容について分析する。また、必要に応じて、「指導・援助の方針」を修正し、教師の関わり方を見直していく機会とする。

効果のあった教師の関わり方は、継続するようにし、効果が見られなかった関わり方は、学校全体や学年全体で、話合いの場をもち、共通理解を図り、児童生徒の情報を共有して、別なアプローチによる関わりを検討していくことが大切である。

特に、1回目の「学校楽しいーと」を実施し、児童生徒が質問項目に「1」を付けたたり、「いじめ」に関する項目に「ある」とチェックを付けたたりしていることを確認した場合には、早急に、教師が、児童生徒と直接、対話をするなど教育相談を実施することが肝要である。児童生徒が、「学校楽しいーと」に記入した数字は、児童生徒から教師に向けた一つのメッセージであることを強く認識し、そのメッセージを受け取ったならば、その後の「指導・援助」に生かしていくことが重要である。このことは、児童生徒と教師との信頼関係にも大きく影響する。また、「学校楽しいーと」で得られた結果だけを絶対視するのではなく、日常の観察や他の教師からの情報、他の検査等との関連をみながら、多面的、総合的に児童生徒理解を行っていくことが大切である。

手順